



Handwritten signature or scribble in black ink on aged, textured paper. The marks are fluid and overlapping, resembling a stylized signature or a series of connected strokes.

JA-P359.002

JA-P359.002

◎帝人事件の裁判長

日布時事社
調査部保存

藤井部長と決定

FEB 7 1935

(東京) 十年一月八日

空前の大騒獄帝人事件は政治的社会的に影響する處甚大なので。公判開廷となつても幾多の波瀾を豫想されてゐる。従つて裁判長の重任に當る者の人選に就ては三宅東京地方裁判長は特に慎重を期し皆川控訴院長等とも打合せ審議中であつたが。結局刑事一部部長判事藤井五一郎氏をしてこれに當らしめる事となつた。陪席判事は同裁判長によつて決定されるが。血盟團公判と同様居森、伊能の兩判事が選ばれる事とならう。

寫眞は

一、帝人事件裁判長藤井部長